



Big Brothers  
&  
Sisters Movement

— 日 一 本 — B — B — S — 連 — 盟 — 機 — 関 — 誌

# ともだち

Vol.220  
2020年  
(令和2年)  
7月号

発行：特定非営利活動法人日本BBS連盟事務局

〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-10-9 更生保護会館内 TEL 03(3356)7383 FAX 03(3356)7610



## 当連盟戸田信久会長の 叙勲ご受章について

戸田会長におかれましては、永年にわたる検察官としてのご功労はもとより、法務行政へのご貢献により、令和2年春の叙勲において、「瑞宝重光章」受章の栄に浴されました。誠におめでとうございます。



瑞宝重光章・副章(右)・略綬(中)



当連盟 戸田会長



法務省保護局更生保護振興課  
押切課長

## 特定非営利活動法人 日本BBS連盟 令和2年度 通常総会

令和2年6月24日(水)、更生保護会館島津記念ルームにおいて、令和2年度通常総会が開催されました(次頁へ)。



### \* \* \* もくじ \* \* \*

・日本BBS連盟令和2年度 通常総会報告	1
・わかものシンポジウム開催報告	6
・クラウドファンディング特集	7
・学域BBS会リレートーク	12
・新地区BBS会発足	13
・お知らせ	14





特定非営利活動法人日本BBS連盟の令和2年度の通常総会が、令和2年6月24日、東京都渋谷区千駄ヶ谷にある更生保護会館において開催されました。例年ですと、総会には会員である全国の都道府県連の代表者の方々や個人会員等70名ほどに参加して頂き、新しい事業年度を迎えた記念すべき総会を盛大に開催していたのですが、本年は新型コロナウイルスの影響で、開催時期が約1ヶ月遅れたほか、決議も定款第33条第2項に基づき、代理人に表決権の行使を委任し又は書面表決するという、過去に例のない形式で開催されました。



その総会には、会長の私、常務理事の長谷川正光氏、監事の茂呂雅之氏及びBBS事務局長西瀬戸伸子氏の4名が出席しました。役員を除く会員は団体会員50名、個人会員1名であるところ、委任状を提出した会員及び書面評決を選択した会員で過半数に達していました(ちなみに当日の欠席は11名でした。)。有効に成立したのを確認した後、議事にはいりました。

例年ですと、会長の開会の挨拶の後、来賓として更生保護行政を所管されておられる法務省保護局の保護局長や幹部の方からご挨拶を頂いたり、BBS運動の発展に貢献された方々に対して日本BBS連盟会長特別表彰が行われ、表彰状と記念品の授与が行われていたのですが、当日は保護局長の代理として出席された法務省保護局更生保護振興課長押切久遠氏から、局長挨拶を代理朗読して頂きました。

その後、会長の司会の下で、議事録署名人の選任、令和元年度の事業報告、会計報告が行われ、引き続き監事から、監査報告が行われました。注目された活動としては、4団体(1県連、3地区会)においてクラウドファンディングへの挑戦がなされ、いずれも目標額を達成したこと、日本における更生保護ボランティアの活動を世界に発信するため、更生保護団体国際ネットワーク推進本部に参画し、令和元年9月にオーストラリアで開催された第4回世界保護観察会議に11名のBBS会員が参加したこと、本年4月開催される予定であった東都コングレスやユースフォーラムへの準備活動を行ったこと、昨年10月7日開催された「更生保護制度施行70周年記念全国大会」を共催し協力したこと等でした。そして、議案どおり、承認されました。

さらに、理事会の決議を経た、令和2年度の事業計画と共に伴う一般会計・特別会計予算を報告しました。本年度の重要な事業としては、平成29年12月、閣議決定された再犯防止推進計画を国、地方自治体及び民間団体とさらに強固に連携し、再犯・再非行防止の具体的な取組を積極的に推進していくことが挙げられました。また、SDGsの達成に向けての活動も求められています。さらに、2020年4月に京都で予定されていたコンгрès(第14回国連犯罪防止刑事司法会議)及びユースフォーラムは、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大した影響で残念ながら延期されましたが、今後の状況をにらみながら対応が決定されるものと思われます。なお、会員から、意見が出された事項については、今後、適切に対応していくことになりました。そして、最後に保護局からの連絡事項及びBBS事務局からの連絡事項が伝達されました。

不幸にして非行に陥った青少年等を対象とするBBS運動や更生保護の基本理念は、確固たるものがありますが、BBS運動を含め更生保護を取り巻く情勢は、昨今の社会的耳目を集めた事件や社会情勢の変化を含めて何かと厳しいものがあります。とりわけ今後は、BBS運動においても新型コロナウイルスの感染拡大防止のための工夫(三密を避ける、社会的距離をとるなど)を講じていく必要があると思います。様々な社会経済活動の分野において、ガイドラインが策定され、関係者は対策をとっています。BBS会員の皆様も、「新しい生活様式」を意識しながら、80周年を目指し、新たなBBS運動のあり方を模索し、ともだち活動の活性化策、学習支援活動の充実、保護観察所・保護司会・更生保護女性会、地域等との連携のありかたなど、本年も引き続き、更生保護関係機関等の理解を得つつ、会員の皆様の積極的で一段と工夫された質の高い活動による新たなBBS運動の展開を期待しております。

令和2年6月24日 戸田信久

人はみな、  
生かされて  
生きてゆく。  
更生保護ネットワーク





# 法務省保護局長挨拶



令和2年6月24日(水) 令和2年度特定非営利活動法人日本BBS連盟総会における

## 挨拶



本日、令和2年度日本BBS連盟総会が開催されますことを心から御祝い申し上げます。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、規模を縮小した形での開催となり、皆様とお会いすることができず大変残念に思います。

改めまして、BBS会員の皆様は、日頃から保護司等の更生保護関係者や地域の関係機関と協力して、非行のある少年の立ち直り支援や生きづらさを抱える少年に対する居場所作り、さらには“社会を明るくする運動”等の非行防止活動に熱心に取り組んでいただいており、心からの敬意を表します。

また、都道府県BBS連盟代表の皆様は、リーダーシップを發揮しBBS運動を積極的に展開されており、更生保護行政を預かる立場にある者として大変心強く感じております。

さて、本年度の総会開催に際し、BBS会員の皆様にお伝えしたいことを、4点述べさせていただきます。

第1に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が、会員の皆様やそのご家族の日々の生活、そしてBBS活動に対し重大な影響を与えている点についてです。ある地区でなされた調査結果によれば、学生会員の2割がその学生生活に支障をきたすとともに、多くの会が活動できない状況にあるとのことでした。全国の大学等では新規会員募集の時期に臨時休校となるなど、新入生に対する会員募集が満足にできることにより、会員の確保に苦慮されている地区会もあると思われます。

効果的な打開策は残念ながら簡単には見つかりませんが、このような困難な事態にある今だからこそ、地区や都道府県の垣根を越えた横のつながりを緊密にして会員相互が助け合い、これからBBS活動の進め方について意見交換を活発にするなどして、その結束の強化に意識的に取り組んでいただければと思います。

第2に、非行少年や社会の中で生きづらさを抱える少年少女を取り巻く現状についてです。コロナ禍のために我々が経験した、まさに不自由な非日常の事態は、比喩的に言えば、彼ら彼女らにとってはこれまで経験してきた日常的な状況そのものであり、更にその孤立を深刻化させているのではないでしょうか。彼ら彼女らへのアウトリーチ、すなわち、受け入れる居場所や環境を整え、生きづらさに打ち克てるよう、我々の持てる力を届け、その支え手となる皆様の活動が、これまで以上に求められているように思います。「新しい生活様式」に沿いつつ、工夫を凝らして学習支援活動を行ったり、新たな活動にも果敢にチャレンジしていただき、生きづらさを抱えた少年等に笑顔を届けていただきたいと思います。

第3に、70回目の節目を迎えた“社会を明るくする運動”は、従前の街頭での広報活動の実施等が困難であるため、SNS等を活用したいわゆる非接触型の広報活動を中心に展開することとしています。

SNS等を用いた広報展開は、BBS会員の皆様にとって、地区会のTwitterで活動の様子を積極的に発信されるなどの実績があり、馴染みのある手法ではないでしょうか。

是非とも、BBS会員の皆様が新たな広報展開の先頭に立っていただき、保護司や更生保護女性会員の皆様とともに、「広がり、つながる 未来の輪。」をスローガンとするこの“社会を明るくする運動”を大きく盛り上げていただきたいと願っております。

第4に、「京都コンгрレス・ユースフォーラム」は、残念ながらその開催が延期されましたが、世界各国から参加する刑事司法関係者に対して日本のBBS運動の素晴らしさをアピールし、BBS運動がSDGs(持続可能な開発目標)の理念である「誰一人取り残さない社会」の実現に貢献する大きなチャンスです。引き続きその成功に向けて、BBS会員の皆様の御協力をよろしくお願ひいたします。

最後に、今後とも更生保護に対する変わらぬ御理解と御協力をお願い申し上げ、また、各地区や学域におけるBBS運動のますますの御発展と御活躍を祈念し、私の挨拶といたします。

令和2年6月24日

法務省保護局長 今福章二

# 令和2年度 総会 開催報告

■期日：令和2年6月24日(水)

■会場：更生保護会館3階 島津記念ルーム

■内容

(1)特定非営利活動法人 日本BBS連盟戸田会長挨拶

(2)法務省保護局押切更生保護振興課長ご挨拶

(3)定足数確認、議長選出及び議事録署名人の選任

(4)議決事項

\*1号議案 平成31年度/令和元年度 事業報告

\*2号議案 平成31年度/令和元年度 一般会計・特別会計決算書

(5)報告事項

\*令和2年度 事業計画

\*令和2年度 一般会計・特別会計予算

(6)会員提出の提案・意見等について～宮野会員、滋賀県、福岡県、熊本県、佐賀県から提出された意見について協議。



## 1号議案

平成31年度/令和元年度事業報告について、以下のとおり承認されました。

昨年度に引き続き「沼田町三者連携プロジェクト」や「コンセプト・スタディ」を実施し、また、オーストラリア（シドニー）で開催された第4回世界保護観察会議に11名の会員の参加を支援したほか、本年4月に開催予定（新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期）の京都コングレス及びユースフォーラム参加予定者等に対する事前勉強会出席への助成などを行った。その他、会員研修として、法務省との共催で中央研修会を実施したほか、各地方連盟における研修への助成を行った。さらに、非行少年や社会不適応少年を援助するため、地方自治体や関係団体と連携し、ともだち活動、学習支援等を推進したほか、関係機関・団体への機関誌の提供や、他団体等が行う会合や行事への出席・参加協力をを行い、連携強化に努めた。加えて、更生保護関係団体とともに、更生保護制度施行70周年記念全国大会を共催した。

## 2号議案

平成31年度/令和元年度一般会計・特別会計決算書について承認されました。

## 理事会報告等

令和2年度事業計画及び一般会計・特別会計予算が報告されました。

## 連絡事項

### 【保護局から】

- 1 新型コロナウイルス感染症への対応としては次のとおり。①京都コングレス・ユースフォーラムの開催は延期になったこと、②“社会を明るくする運動”は可能な限りSNS等を用いた非接触型の広報活動について検討すること、③法務大臣感謝状贈呈式及び第61回会員中央研修会の開催については検討中であること。
- 2 関係機関との連携について、教育委員会や学校等から保護観察所を経由して非行防止教室へ協力依頼があった際は可能な範囲で協力してほしい、また、児童相談所から児童相談所が保護している児童や虐待を受けた少年等が地域における見守り支援を必要としている場合、児童相談所から保護観察所を経由してBBS会による協力依頼があった際は可能な範囲で協力してほしい。
- 3 BBS会の状況に関する調査については、令和3年1月1日以降については調査時点を毎年1月1日とし、ともだち活動の実施件数等は年度単位から年単位に変更して集計作業を行う。
- 4マイナンバーカードの積極的な取得と利活用の促進についての協力依頼。

### 【当連盟事務局から】

- 1 戸田会長の叙勲ご受章について
- 2 当連盟会長特別賞表彰について
- 3 新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した活動について
- 4 本年度の全国学生BBS会員研修に対する当連盟の支援について
- 5 当連盟機関誌「ともだち」の発行数の見直し等、効果的な広報の検討について
- 6 クラウドファンディングの取組の推進について
- 7 各地方連盟によるポスト70周年プロジェクト「コンセプト・スタディ」報告
- 8 発布物品の値上げ等について
- 9 年会費納入並びに地方連盟及び県連盟総会資料の提出の依頼について
- 10 県連盟代表者交代の場合の速やかな連絡について

# 令和2年度事業計画(抄)

## (活動方針)

近年、少年非行の数は減少してきているが、子どもたちを取り巻く環境は急激に変化し、人間関係に悩み、社会に適応できず、不登校や引きこもりになる子どもたちや、いじめや虐待など様々な被害を受ける子どもたちの存在は大きな社会問題となっている。

そのような中、平成29年12月、再犯防止推進計画が閣議決定され、国、地方公共団体及び民間団体が連携し社会全体で再犯・再非行防止の具体的な取組が進むと共に、世界的にもSDGs（持続可能な開発目標）達成に向けての機運が高まっており、青年ボランティア団体として活動してきた我々BBSとしては、現代社会において何ができるかを改めて問い直し、社会からの期待に応えようとしている。

そこで、NPO法人としての認証を受け5年目を迎える当連盟としては、組織基盤の一層の強化を図るとともに、地方連盟を中心として都府県連盟（北海道にあっては札幌、函館、旭川、釧路の4連盟）及び地区会との相互の連携を強化し、本運動の一層の充実と発展を推進していくものである。

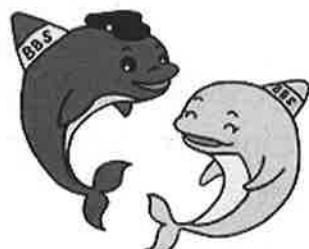
また、本年度は、昨年度に引き続き「更生保護国際ネットワーク推進本部」に参画し、京都コングレス（第14回国連犯罪防止刑事司法会議）及びユースフォーラムに参加するなどして、更生保護制度及びBBS運動を国内外に示していくこととしている。

## (重点施策と事業計画)

- 1 財政基盤の強化、組織規定の整備、更には会員の増加を目指す取組等を進め、組織基盤の強化及び組織運営の安定化を図る。
- 2 地方連盟・都府県連盟等との緊密な連携の下にBBS運動の方向性を確認し、地区会等の活動の活性化に資する取組を推進する。
- 3 現代社会の少年を取り巻く課題に幅広く対応できるよう会員研修の充実を図るとともに、自己研さんを推奨、支援する。
- 4 関係機関・団体との連携を深め、また、積極的な広報に努める。
- 5 第70回“社会を明るくする運動”に参加協力する。
- 6 それぞれの顕彰要領等に基づき、法務省において行う法務大臣感謝状の贈呈式に参画するほか、地方連盟大会・研修会において会長表彰、当連盟総会において会長特別表彰のそれぞれを適切に行う。

## (その他の事業)

- 1 保護観察所が実施する社会貢献活動及び社会参加活動に積極的に協力する。
- 2 地区会の新規発足や再発足を促進し、発足した地区会を支援する。
- 3 BBSのOB・OG会の組織化に協力する。
- 4 消費税増税に伴う頒布物品の価格の適正化を行い、その収益を運営資金に供する。また、京都コングレスの開催を機にリーフレットの英語版等の広報資材を作成する。
- 5 その他、当連盟の事業目的を達成するために必要と認められる事業を実施する。





## わかものシンポジウム開催報告



令和2年1月25日（土）13:30～16:50 更生保護会館4階会議室において、一般財団法人日本刑事政策研究会（以下、「刑事政策研究会」という。）と当連盟が主催し、わかものシンポジウム「安心・安全な社会の実現に向けた若者の役割について」が開催されました。まず始めに主催者両代表挨拶があり、刑事政策研究会小津会長は開催趣旨について次のように述べられました（要旨）。「このシンポジウムは、今年4月の京都コングレスに先立って行われるユースフォーラムに向けて開催されるものである。ユースフォーラムは世界の若者たちがコングレスの議題に関連したテーマについて議論を行うもので、そのメインテーマは「安全・安心な社会の実現へ～SDGsの達成に向けた私たちの取組～」である。他方、刑事政策研究会では例年、読売新聞と共に懸賞論文を募集しているが、今回はそのテーマをユースフォーラムの議論の一つである「青少年の犯罪の予防、罪を犯した青少年の社会復帰における若者の役割」として実施し、その懸賞論文受賞者の論文内容とBBSの皆さんとの活動をベースにこのシンポジウムを開催することとした。これをユースフォーラムの議論に生かしてほしい。」

続いて、法務省法務総合研究所鈴木望室長研究官による「犯罪白書に見る若者の犯罪・犯罪被害・立ち直り」と題する講演があり、その後、参加者によるディスカッションに入りました。参加者は、同論文受賞者、BBS会員、ユースフォーラム参加予定者、研究者、法務省若手職員等80名ほどであり、マスコミ関係者の取材もありました。

第1部は受賞者から論文内容が発表されました。受賞された4名の論文のテーマは

- ① 医学生・薬学生による薬物教育プロジェクト導入の利点について
- ② 非行少年の要保護性解消と少年司法におけるダイバージョン—少年法廷の可能性—
- ③ 青少年犯罪の予防にみるメンタリング活動の展望
- ④ SNSを利用した新しいともだち活動の形

で、このうち、③、④はBBSのともだち活動に関するものであり、また、③はBBS会員によるものでした（同会員の報告は近々更生保護誌に掲載予定）。第2部は、八王子BBS会と早稲田大学広域BBS会が日頃の活動について発表しディスカッションが行われました。その具体的、実践的な発表は素晴らしい、これまでBBSを知らなかった参加者の方々にも感銘を与えたようです。

最後に、法務省保護局今福章二局長が次のように締めくくられました（要旨）。「今日は、安心・安全な社会の実現に向けて若者に何ができるかという観点で、実践的、理論的な話を聞かせていただいた。今、この社会を評して分断社会と言われたりするが、若者たちがどうその分断を壊していくのかという見地からの発表があったように感じた。ただ若いというだけで有利な位置にいるか、それでできるかというと、そういうものではない。皆さんのが今日言われたのは、BBSの基本理念にもなっているが、同じ目の高さでかかわろうとする、ここが基本にあって、それでようやくそういうものがなされるのかと思う。しかしそれは、大きな努力と意思がなければできない。どうやって同じ目線に立つのか、信頼される友達、信頼される大人あるいは先輩になるためにはどういうことができるのか、そして実践では何ができるのか、いろいろな提言がなされ、またBBSの活動について実践報告があった。ユースフォーラムの日まで、あと80日足らず。今日のシンポジウムがホップになって、ユースフォーラムをステップとして、そして我々がここで考えたことが本当に世界に通用するのか、あるいはそこでまた新たな仲間を世界からかち取るのか、そういうことを試す場としてユースフォーラムにつなげていっていただきたい。また、それはあくまでステップであるから、皆さんのがなされたことを試された後、ジャンプとしてそれぞれの地域で、地域に根ざして今までの志をどう実現するのか、そこでまた花を咲かせてもらいたい。」

このシンポジウムの詳細及び懸賞論文に関する応募要領等については、刑事政策研究会のホームページをご覧ください。



CROWD  
FUNDING

# クラウドファンディング特集

## ■クラウドファンディングを活用したBBS活動について

法務省保護局更生保護振興課

補佐官 岡本 泰弘

### 1. はじめに - クラウドファンディングって？？

皆さんのがBBS活動を行うに当たっての費用は、会員から集めている会費はもちろん、更生保護協会や保護司会連合会等の更生保護関係団体からの助成金などを充てていると思います。

非行少年や社会の中で生きづらさを抱える少年への支援活動を計画する際などに、「もう少しお金があれば新しい活動ができたり、今の活動を充実させることができるように」などと考えたことはないでしょうか。

そのようなときに、活動資金の調達の方法の一つであるクラウドファンディングを活用することが考えられます。

クラウドファンディングとは、「クラウド（群衆）」と「ファンディング（資金調達）」を組み合わせた造語で、インターネットを用いて寄付を募ることを言います。最近では、新型コロナウイルス感染症関係のクラウドファンディングが多数実施されています。

BBS運動が発足した昭和22年当時では、考えられなかった資金調達方法ですね。

### 2. BBS会がクラウドファンディングに取り組む意義

令和元年度の日本BBS連盟総会において、クラウドファンディングを活用した活動資金の調達について紹介をさせていただきました。その後、令和元年度中に4つのBBS会においてクラウドファンディングに挑戦し、必要な資金を得ることができました。

クラウドファンディングに挑戦するのは、ハードルが高く思えるかもしれません。しかし、新たな活動にチャレンジすると、これまでの活動では得ることができなかつた経験をすることができるのではないかでしょうか。また、クラウドファンディングを通して、これまでBBS活動を知らなかつた人に対して活動内容を広報することができます。継続的に活動を支えてくれるサポーターを得ることができます。ここに、BBS会がクラウドファンディングに挑戦する大きな意義があるのでないでしょうか。

### 3 終わりに

昨年度にBBS会を始めとする更生保護関係団体が挑戦したクラウドファンディングの実施内容等については、「更生保護関係団体のためのクラウドファンディング実践マニュアル」にまとめ、各保護観察所を通して活動中の地区BBS会に配布することとしています。また、法務省ホームページにもデータを掲載していますので、ぜひマニュアルをご覧いただき、クラウドファンディングを活用した資金調達について、検討してみませんか。



クラウドファンディング実践マニュアル  
への QR コード

# クラウドファンディング実施団体からの報告

## ■SGU 江別 BBS 会会長 高橋美佳（北海道・江別市）

### 1. クラウドファンディングをやろうと思ったきっかけ

私たちは3年前から始まった三者連携プロジェクトで、沼田町就業支援センターに行き3泊4日の日程で入所している少年と普段行っている農業と一緒にしたり、グループワークなどを行ったりしていました。私たちBBS会は少年と関わる活動があまりなかったので、とても印象に残りました。そこで、一般の方々にも沼田町という地域の取り組みも、もちろんのこと、そこで更生に向けて頑張っている少年たちを知ってほしいと思ったのです。何より少年たちと活動をしているのがすごく楽しかったのですが、この三者連携プロジェクトは2年間だけだったので、終わってしまうことが勿体ないと思っていました。そのときにクラウドファンディングの話を聞いたので、農業実習だけではない学習支援もおこなえるように資金を集めようと、挑戦してみることになりました。

当初の目標金額15万円、達成できました。ありがとうございました！

私たちは、沼田町の少年たちとの交流を終わらせたくはありません！



来年以降の活動継続にむけて「ネクストゴール」に挑戦します！

### 2. 目標額の決め方、達成するまでの期間

目標額は2年間の活動費と沼田就業センターに図書とDVDの寄贈、また学習支援を行うための参考書代を含め15万円。センターへの訪問回数増加を目標とし、なるべく安く行ける手段も検討しました。達成するまでの期間は、準備を含めて5か月間でした。内容や目標金額など様々なことを医療福祉機構の方々と話し合い、沼田町とセンターの方々にもクラウドファンディングについて伝えるなどの準備に約3か月半、実際にサイトをオープンしてからは約1か月半ぐらいでした。

### 3. やってみて感じた困難や課題

サイトをオープンした当初は身内から広めることができたのですが、途中から止まってしまい、広報活動がうまくいかなくなりました。更生保護に関わる人々以外にもさらに広めることが必要であると反省するとともに課題であると思いました。関係者のみならず、世間に広めていくことで少年非行に対して少しでも印象を変えることになるかなと思いました。

### 4. これからやってみようと思う人へのアドバイス、エール

たくさんの人の協力に加え、挑戦することで意外にもたくさんの人が興味を持ってくれて応援してくれます。お金だけではない、価値が見いだせました。辛いと感じることはたくさんあることだと思いますが、やってみることで自分自身にとって貴重な経験になるし、成長させてくれると思います。頑張ってください。

## ■八王子 BBS 会会長(当時) 松井優佳（東京都・八王子市）

### 1. きっかけ

当会がクラウドファンディングを実施するに至った目的は3点あります。1点目は、資金難です。当会では活動が増加する一方で年々予算が減少していました。そこで、活動に賛同してくださる方から支援を募ることで、活動資金を収集しようと考えました。2点目は、支援者とのつながりです。プロジェクトを通して活動の輪を広げたり、既存の支援者との関係強化、新しい支援者との関係の構築ができるのではないかと感じました。3点目は、広報活動です。サイトやチラシを作成し、公開することで、活動の拡散につながり、広報活動の一環として有益ではないかと考えました。



### 2. 目標額

目標額は、減少した予算額をもとに、現実的に集まりそうな額を試算しました。実際には試算よりも多くの方からご支援いただき、目標を大きく上回ることができました。達成できそうな目標設定にしたこと、プロジェクトへのモチベーションも高まったように感じます。期間については、2019年度中に報告までを完了させなければならなかったので、それに間に合う一番遅い時期をプロジェクト実施期間として設定し、そこから逆算して計画を立てました。

### 3. 困難や課題

プロジェクトの進行はひとつひとつが手探りで、困難も非常に大きかったです。特にスケジュール管理には苦戦しました。プロジェクトの実施を決定してから開始するまで約1か月半と短かったので、最低限のやるべきことを行うだけで精一杯になってしまいました。クラウドファンディングを実施する目的をもとに、新たな支援者との関係構築として地元企業などへのアタック、広報活動としてHP作成やSNSアカウントの運営を計画していましたが、いずれも実行することができませんでした。最初に計画を立て、役割分担をするだけでなく、進捗に合わせて柔軟に対応していく必要があったと思います。

### 4. アドバイス、エール

最後に、このプロジェクトを通して、改めて自分たちの活動を見直すことができました。サイトやチラシを作成することで、当会の強みや活動の特色について考える機会になりましたし、多くの方に支えられて活動ができるということを実感することができました。プロジェクトに際して多くの方にご協力いただき、大変感謝しております。

達成までの道のりは平たんではありませんでしたが、資金を集めることの大変さを実感することができました。クラウドファンディングをやる目的と、団体としての課題が一致している地区会はぜひ取り組んでみてください。

## ■阿倍野地区BBS会会长 大野加代子（大阪府・阿倍野市）

### 1. クラウドファンディングをやってみようと思ったきっかけ

阿倍野地区更生保護団体より助成金を頂いている中の、児童養護施設でのボランティア活動で、昨年1月のイベント時の後片づけの際に6年生に次はいつ来るのか聞かれ「4月から5月になる」と答えると「これで最後か…」と淋しそうに言った顔が忘れられなかった。今年からは3月に、6年生に最後の想いでとなるイベントを企画したかったが、施設への出費の比率が大きくなつた上に、近隣地区的活動では無い事で、阿倍野地区での活動が怠る事が無いようにも活動費を集める方法を模索していた所へ日本BBS連盟からクラウドファンディングの話があったので挑戦しました。



### 2. 目標額の決め方、達成するまでの期間

- ・福祉医療機構のご指導のもと、イベントをする為の必要経費を割り出して目標金額を設定。
- ・達成するまでは、約3ヶ月

### 3. やってみて感じた困難や課題

- ・年末で投稿を見る人も多く、サイトを見てもらえば、支援を頂けると思っていたが、見知らぬ人からの支援者は全く無く、自分たちで知人や関係者に声かけをして初めて支援をして頂きました。
- ・お金が関わることなので、どう思われるだろうか、断る方も心苦しいだろうし今後のつきあいにも響いてこないか等、様々な思い等から、当初は、知人や関係者にお願いをする事に最初は抵抗がありましたが、話を進めていくと皆さんが暖かい気持ちで接してくれました。
- ・今回訪問を予定していた施設は、施設の特性から非常に繊細な対応が求められるため、様々な事に許可を得るのに随分時間を要し、予定していた時期よりも数日遅れてのスタートとなり、ご指導を頂いている福祉医療機構担当者にも、ご心配をかけたと思います。
- ・チラシの配布数や、どういった行程で進めていくか等は、全て同担当者のアドバイスをもとに行動していったので、悩む事はありませんでしたが、開始して1ヶ月経った頃から、サイトの閲覧数や、ご支援がピタッと止まってしまい、その時は、もう無理かもしれない…と、半ばほとんど諦めかけていたが、やはり、長年の夢だった、この活動。この機会を逃したら、もうこのようなチャンスはないかもしないと思い直した頃、幅広いお付き合いを持たれているフラメンコ指導者が強力な助っ人となり、その方のおかげで、中盤から一気に活動が周知され、達成に向かっていきました。

#### 4. これからやってみようと思う人へのアドバイス、エール

はじめてクラウドファンディングを行う方は、わからない事だらけかと思います。

目的は活動資金だとは思いますが、私達が今回クラウドファンディングを行い、得たものや感じた事は、お金以上のものでした。何よりも、人のあたたかさや、信じることの大切さ、そして、夢物語の様に感じていた事が、プロの意見に素直に耳を傾け、自分の限界を越えることが出来た事で、自信や、今後の生き方にも大きな影響を与える活動となりました。

普段から色々な方と関わっておくべきだという事も実感しました。

自分の中の勝手な想像や、考えに収まらず、目標に向かって、勇気を持って、とにかく前向きに行動を起こし、夢を達成して頂きたいと思います。

- ・人、施設、場所が投稿内容に、少しでも関連が有れば、必ず、記載する旨と記載内容の許可を得て下さい。
- ・自分たちの思いを伝える為には賛同して頂ける場所へは出来る限り足を運んでしっかりと伝えて下さい！
- ・人との繋りが大切です。信頼して貰える様な活動を続けていれば賛同して頂けます！
- ・そして最後の最後まで諦めないで下さい！

★例え、達成しなくても多くの方と繋りは広がるはずです★

一本本当に感謝に溢れる貴重な経験をさせていただきました

### ■和歌山県 BBS 連盟会長 高垣晴夫 (和歌山県)

#### 1. クラウドファンディングをやってみようと思ったきっかけ

クラウド内でのBBS運動の展開による活動PR。資金獲得の方法としてクラウドファンディングの敷居を低くするため。

#### 2. 目標額の決め方、達成するまでの期間

リターンの経費を含め、活動のために不足する論理的な金額として18万円としました。公開期間は50日として40日目で目標額の18万円を達成できました。最終は36名の方から193,000円を支援して頂きました。この中から、クラウドファンディングの手数料が引かれ 163,278円が県連盟の口座に振り込まれました。この支援で「みかん」を購入し、東北まで運ぶ「燃料費」に充てました。費用は不足しましたが、クラウドファンディングでの支援は非常に助かりました。



#### 3. やってみて感じた困難や課題

困難は感じなかった。課題としては、クラウド内での知名度のなさとPC慣れしていない人が申込できないこと。

#### 4. これからやってみようと思う人へのアドバイス、エール

ストーリーがあり、共感が得られやすく、わかりやすい目的、達成型か寄付型かの選択。

リターンの内容もストーリー性が必要。

これからのBBS運動のPR展開のツールと考えているYouTubeに活動の動画をのせることができた。  
(YouTubeで「和歌山県BBS連盟」で検索可能)

直接現金で持ってきててくれる人、現金書留で送金してくれる人への対応を考えておくこと。

#### 5. 終わってみて改めて感じたこと

- ① 他の地域のBBS会にクラウドファンディングを勧め達成できたことに感激した。
- ② 今後クラウドファンディングを使ったBBS運動のPRと資金調達展開の目途が立った。
- ③ クラウドファンディングを行った更生保護団体と共にによるつながりができる。
- ④ クラウドファンディングをする団体がまだ多くないので、話題性があり新聞、テレビ、ラジオ全てのマスコミが取り上げてくれて資金調達に増してBBS運動のPRが大きくできた。
- ⑤ 今後はクラウドファンディングしたBBSメンバーが集まりパネラーになり、BBS活動でのクラウドファンディングの展開と題したパネルディスカッションを開いて動画にしてYouTubeで公開することをしたい。



## ■法務省調査研究事業を振り返って

独立行政法人 福祉医療機構 経営サポートセンター コンサルティンググループ  
三好 仁美

昨今コロナ禍によって資金繰りの難しさが叫ばれていますが、みなさんは「クラウドファンディング」という資金調達の方法がより注目されているのはご存じですか？

クラウドファンディングとは、クラウド（群衆）+ファンディング（資金調達）の造語で「インターネットを通して不特定多数から資金を調達すること」です。

昨年度、このクラウドファンディングに全国4つのBBS会・連盟が挑戦をし、我々福祉医療機構はコンサルティンググループの中野・三好を中心に、法務省の調査研究事業として実施にあたる伴走支援とクラウドファンディング実践マニュアルの作成をおこないました。

実施した各団体は学業や仕事等他の活動との兼ね合いもありながらも、BBSらしいユニークな視点で寄付を募り、どの団体も目標金額を達成しました。中には、会員が少ないために存続の危機になりながらも、目標金額を大幅に超えて達成を成し遂げた団体もあります。

我々が実際にクラウドファンディング実施のお手伝いをして見えてきたことは、「クラウドファンディングで得られるものはお金だけではない」ということです。

クラウドファンディングをおこなう際には、自分たちの活動や想い、課題に感じていること、必要な資金についてなどをインターネット上で伝える必要があります。他人に伝えるという経験を積むことは、自分たちの活動を分かりやすく伝えられるようになるほか、「自分たちの活動や意義を見直すことができた」とどの団体も話していました。これは今後の団体運営において新たに寄付を募る時、会員を募る時など、様々な場面で必要なスキルではないでしょうか。

また、寄付のお願いを周囲の人に伝えていた団体からは「思いもよらない人から支援をもらえたのでびっくりした」という声もありました。お願いをするという行動を通して、地域とのつながり方を見つめ直したり、新たな関係を作ったりするきっかけにもなったようです。

さらに、更生保護という取組み全体について知らない人が興味を持ってくれることも期待できます。今回の調査研究事業では、GoodMorning というクラウドファンディングサイトを運営する会社が「自分たちは社会課題に特化したクラウドファンディングのお手伝いをしているが更生保護について知らなかった。自分たちのようにこの取組みを知らない人が他にもいるのではと考え、特集を作りたいと思った」と更生保護の特集ページを作ってくれたこともありました。

更生保護の活動は、あまり目立たない活動として長年おこなわれてきたと聞いています。しかし、「社会的に取り残された人を見捨てない安全な地域づくり」「青少年の健全な育成」「罪を犯した人の立ち直り」など、地域に住む人であれば誰もが望むことのために活動をしていることは、(みなさんが想像しているよりも)人々の共感を呼ぶ魅力的な活動であると感じています。

これからも社会的に意義のあるBBS会を盛り上げていくために、ぜひ周囲の人たちにみんなの活動を伝え続けていってください。そしてその方法の1つとしても、まずはクラウドファンディングから始めてみてはいかがですか。



田園調布学園大学 BBS 会顧問

田園調布学園大学子ども未来学部 准教授 長谷川洋昭

田園調布学園大学 BBS 会は平成 23 年 10 月 1 日に発会、現在は約 20 名の学生たちがさまざまな活動に参加しています。地元警察とのつながりも大切にして、まずは地域に立脚した活動をすることを常に念頭に置いています。

少年院の法務教官を目指していた私自身も、学生時代は BBS 会員(ハ王子 BBS 会)として、実際に多くのことを学ぶことができました。その時の思いや経験、そして人とのつながりが今になって大きく枝葉を伸ばしていることに気づきます。

## 1. 学域 BBS 会として設立した経緯

まず地域の状況を調べることから始めました。大学が所在する地域は、1970 年代に開発が進んだ私鉄沿線のいわゆるニュータウンであり、治安は市内で最も良いエリアとされています。管轄の横浜保護観察所に BBS の地区会の有無について聞いてみたところ、かつて地区会は存在していましたが、現在は組織としては存在していないことが判明しました。一般的であれば地域名を冠した「〇〇区 BBS 会」などとして立ち上げるのかもしれません、大学名を冠した学域 BBS 会として立ち上げている他の事例もあります。そこで学生たちとそれぞれ「メリット」「デメリット」を整理することから始めました。

その結果最終的に「大学名がある方が活動メンバーの所属が明確になり、仮に BBS 運動を知らない人であっても、社会は信用しやすいのではないか」というメリットを最大限評価することにより、「田園調布学園大学 BBS 会」として発会することになりました。

実際に地域活動を開始すると、学生たちが身に着けている会の腕章やパーカーの「大学」の文字がスムーズに事が運ぶ場面は数知れません。これは例えば BBS 県連の集まりなどでも、名前だけで学生たちの所属を覚えていただけることにも役立っています。個人でも組織でも、名前を覚えてもらえるということは、関係性を築いていく上で大変有効なものでしょう。

## 2. 学内サークルとして存在した場合のメリット

本会の場合は第一に「同じ学内なので、意思疎通や情報の共有がスムーズである。」ということがあげられます。これはいかなる組織運営でも最も大切なことではないでしょうか。そして大学学生会のサークルとしても届け出をしているので、独自の「部室」が与えられており、学生たちは自由に集いお菓子などを食べながらリラックスした空間でコミュニケーションをとっています。自分たちが集まれる「リアルな場所」を持っているということは、組織活動の継続性や連帯感の醸成に大きな効果を持つと思います。

(近年、地域の保護司会でも更生保護サポートセンターの設置が進んでいますが、これも「リアルな場所」を持つことで先述のような効果も期待されることでしょう。)

また周辺効果としては、学内の他の学生たちに「BBS」の存在を広く認知してもらえることも大きいと思います。学園祭や新入生歓迎会などのイベントを通じ活動の内容について知ってもらうことは、「更生保護」の意義を知つてもらう意味で、効果的な広報活動の一環であるといつてもよいほどです。

## 3. 学域 BBS 会の課題

まず学域 BBS 会以外の地区会との構成員を比較してみましょう。一般的な地区会では BBS の活動の趣旨に賛同する人なら誰でも参加できますが、学域 BBS 会の構成員は基本的に学生に限定されます。一般的な地区会の組織に属した場合は様々な社会的立場と年齢層の会員がつながることが出来るわけですから、学域 BBS 会はその点ではデメリットと言えなくありません。これについては学生たちが普段から意識して、様々な場と人との関わりの重要性を認識して行動することが求められます。

次に組織運営についてはどうでしょうか。一般的な地区会であれば会員は思いのある限り継続できるでしょうが、学域 BBS 会の場合には「卒業」というゴールが会員には存在します。仮に 1 年生で入会したとしても在籍期間は 4 年間ですから、あっという間に「退会(卒業)」となります。よって引き継ぎや「マインド」がじっくりと伝達されることが困難な場合もあり、またいわゆる「活動の勢い」も年々始まってみないと判りません。

ただ、ゴールあるからこそ合理的に計画を立てて行動せねばなりません。学生たちはそれぞれが自らの立場や役割を考え、それが間違なく成長していることを私は側で確かに確認しています。

## 4. 学域 BBS 会員は「タンポポのわたぼうし」

学生たちは卒業後、タンポポのわたぼうしのようにそれぞれ新しい土地へと旅立っていきます。ふわりと根を下ろしたその土地で、BBS と距離を置いても私は全く構わないと思っています(スマミセン!)。なぜならば、必ずしも BBS 会員の立場にならなくとも、BBS 運動・更生保護の力強い理解者・協力者になってくれることは間違いないからです。

更生保護法には「国民は、(略)その地位と能力に応じた寄与をするように努めなければならない(第二条 3)」とあります。社会の理解と協力なくして「更生保護」はありませんので、それぞれの立場で出来ることを出来る範囲で行なうことが大切です。彼らが卒業してもそれぞれの地で、大輪の花を咲かせてくれることを私は心底信じています。

# はじあましと (新 BBS 地区会発足)

## ■彦根地区 BBS 会会長 田岡政宗

(滋賀県彦根市)

彦根 BBS 会は、子供たちとともに悩み学びながら自立を支援しようと、2018年2月20日から正式発足に向け会員獲得等の準備を地道に続けてきました。

2020年1月18日には彦根 BBS 会発足のキックオフイベントとして長曾根町の教禅寺にて、おもちつき大会を行いました。このイベントでは私たち会員の他、多くの更生保護関係者（保護司会、更生保護女性会、協力雇用主会、保護観察所）の方々やパフォーマンスを行っていただいた方々に手を貸していただきました。



また、保護観察所から伊藤企画調整課長や北村 BBS 担当官をはじめ5名の観察官、滋賀県 BBS 連盟より西本会長が駆けつけてくださり、他保護区からも視察におみえいただきました。その結果、たくさんの地元の子供たちに来てもらい、その笑顔を見ることができました。キックオフイベントは多くの方々に応援していただき行うことができました。

現在はコロナ禍の影響によって、3月、4月に実施する予定であった雛祭り、手作りうどん体験のイベントが中止になってしまいました。そこで、私たち会員の中には BBS とは、更生保護とは何かということをあまり知らない人もいるので、SNS を用いて今後していく活動やイベントについての会議や保護司の方や保護観察所の方に私たちが知らないことや興味があることを質問するなどしてリモートでの研修を行うことにしました。リモートでの研修はお話を下さる方に動画を撮ってもらいそれを SNS で共有するというものです。これらを通して、イベントや対面での会議、研修ができるようになった時に備え、必要なものを準備し様々なアイデア、考え方を蓄えています。

彦根 BBS 会は発足後、活動を行って間もないですが、保護司の方たちや様々な人たちに支えてもらひながらいろいろなイベントを行っていき、子供たちを笑顔にし、支えとなれるようにかかわっていきたいです。現在では社会人4名、滋賀県立大学の学生3名の計7名の会員があり、これらの会員と保護司の方たちと定例会を開き、イベントの企画実施などの活動を行っています。私たちはまだまだ未熟ですので、かかわる人たちとともに学び成長し、応援してくださる方々に感謝を忘れず活動していきたいです。

## ■白河地区 BBS 会会長 門馬智幸

(福島県白河市)

この度、福島県白河地区に BBS 会を発足しようとの動きが高まったことから、その準備を進め会員を募ったところ10名の方々が集まりました。これも偏に関係各位のご協力のお陰であり、心より感謝致します。

しかし、発会式を行い活動開始しようとしたところで、新型コロナウイルスの感染拡大防止による自粛要請から発会式が中止となり、結局未だ何の活動も行っていませんが、緊急事態宣言の解除に伴い、近々に活動を開始したいと考えております。

今回、白河地区に BBS 会を立ち上げた目的は、犯罪や非行のない明るい社会、つまり子供も大人も安全かつ安心して生活出来る、地域社会を実現したいという願いからです。

そのためには、非行少年や社会不適応少年など、行き場もなく問題を抱えている少年たちや、地域の小・中学校などの不登校生徒への学習支援をはじめ、様々な悩みなどを抱える人たちに対し、同じ目線で向き合える、良き話し相手となってあげることが必要だと考えます。

また、非行少年たちや、問題のある少年たちだけではなく、地域の大人や子供たちが気軽に触れ合えるイベントなどの機会を作る活動も、非行や犯罪の未然防止には大切な活動だと考えています。

これらの活動を具現化するべく、今後は白河地区における幼稚園や保育所の他、様々な施設での各種イベントなどを計画し、実施に向けて努力する他、地域においてのスポーツ大会や季節の行事等、グループワークなどにも積極的に取り組むべく、広報活動なども行いたいと思います。

もちろん、これらの活動を実現させるために必要な「知識や技能」の習得に向け、会員同士が意見交換できるようになんらかの研修も行うなど、多岐にわたる活動を行っていきたいと思いますので、今後とも宜しくお願ひ致します。

# お知らせ

## 令和2年度行事予定表（令和2年7月22日現在）

特定非営利活動法人日本BBS連盟

☆は、日B連が助成する地方大会・会員研修

月	日	行 事	場 所・備 考
令和2 4月	7(火) 27日(月)	業務・会計監査 第1回理事会	更生保護会館 (書面議決)
5月			
6月	13(土)～14(日) 21(日)～22(月) 24(水)	☆東北地方大会 ☆中国地方研修会 日BOB会総会 通常総会	(中止) (中止) (中止) 更生保護会館
7月		第70回“社会を明るくする運動”強調月間・再犯防止啓発月間・「青少年の非行・被害防止」全国強調月間 (ただし、7月中の接触型の広報活動は中止又は延期)	
8月			
9月	5(土) 9(水) 12(土)～13(日) 26(土) 13:00 ～27(日) 12:00	第2回理事会 大臣感謝状贈呈式(代表者のみ) ☆九州地方大会 会員中央研修	オンライン開催 東京都内の予定  来年9月に延期 オリンピックセンター(中止)
10月	3(土)～4(日) 10(土)～11(日) 31(土)～11月1(日)	☆四国会員研修 ☆北海道大会 ☆中国大会	香川県(中止) 富良野市(中止) 山口県(中止)
11月			
12月	5(土)～6(日) 未定	日本更生保護学会 中間監査	東京都・中央大学多摩キャンパス 更生保護会館
令和3 1月	6(水) 26(火)	日本更生保護協会賀詞交換会 “社会を明るくする運動”中央推進委員会会議	法曹会館  法務省大会議室
2月	23(火)	BBS記念碑のつどい	京都市・京都女子大学
3月			

4月6日 京都コングレス記念切手発売日

犯罪防止・刑事司法に関する京都ユースフォーラム 未定

第14回国連犯罪防止刑事司法会議(京都コングレス) 京都国際会議場 未定

## 事務局員退任の挨拶

森永 陽子（事務局員退任）

2010年7月より事務局でアルバイトを始めて約10年、長い間本当にお世話になりました。更生保護やBBS運動は、全く未知の分野で、いたらぬ点も多々ありましたが、皆様の暖かいお心に支えられ、何とか続けてこられました。ありがとうございました。10年の間には、会長2氏と事務局長4氏の交代や様々のことがありましたが、70周年記念事業は中でも一番の思い出です。貴重な体験の数々を与えていただき感謝しております。BBS連盟の更なる発展を祈っています。

## 事務局員新任の挨拶

渡辺 美鈴（事務局員新任）

長年事務局員として務められた森永さんから引継ぎをしました渡辺です。  
これまでBBS活動に接する機会がなかったので、新たな世界が開けたように感じています。  
私はこの10年余り、千代田区を中心として築地、日本橋辺りも含む地域のまち歩きガイド活動をしてきました。特に築地/豊洲市場は好きで、食いしん坊でお料理好きも影響して、毎週のように「調査」と称して買い出しに出かけるのを楽しみにしています。  
また、これまでIT業界で働いてきましたので、その経験も役立てることができたらうれしく思います。  
慣れないことが多く、暫くはご不便をおかけすることもあるかと存じますが1日も早く皆様の活動をサポートできるように努力いたしますので、よろしくお願ひ致します。

## ★ グッズ紹介 ★

## \*\*BBSグッズ・記念誌\*\*

ご希望の方は、地区会等代表者名を入れFAXで申し込んでください。

有償グッズの振込先は次のとおりです。

BBSグッズ専用口座 (郵) 00190-4-324287

**【有償グッズ】 送料：日B負担（振込料は申込者負担）**

\* BBSバッジ 600円

\*クリアファイル(10枚セット) 600円(BBSロゴ入り)

\*トートバッグ 1000円(BBSロゴ入り)

**【無償グッズ】 送料：着払い**

\*リーフレット1セット(50枚)

\*英語版リーフレット1セット(50枚)

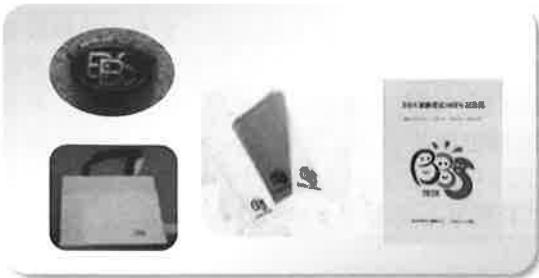
\*28・29・30年度モデル活動報告書

\*28・29・30年度中央研修結果報告書

\*BBS運動基本原則解説書

\*「聞く」から「聴く」へ (CD版付き)

\*ともだち活動をする皆さんへ(平成30年2月改訂)



## [LINEスタンプ配信中！]

吉本興業所属の矢部太郎さんとコラボした#更生ペンギンのホゴちゃんのLINEスタンプを配信中！法務省人権擁護局LINE公式アカウントを友だち追加して期間限定のスタンプを手に入れよう！

<https://line.me/S/sticker/17927>



LINEスタンプ  
QRコード

受賞おめでとうございます！！

令和元年度「日本BBS連盟会長特別表彰」は、以下の2団体に決定しました。

- ・鳥取地区BBS会
- ・富山国際大学SSW・BBS研究会

★「ともだち」219号6頁9行目に誤りがありましたので、お詫びして訂正します。  
誤) SGU(札幌学園大学)  
正) SGU(札幌学院大学)

## ご支援ご協力に感謝

今回も多くの方々から、ご支援が寄せられました。昨年11月1日から本年7月6日までに賛助会費をお寄せくださった皆様のお名前を掲載させていただきます。

BBS運動にお心をお寄せいただき深く感謝申し上げます。

【ご寄付をいただいた方々】(敬称略・50音順)

篠崎浩子、OB会

【賛助会費】(敬称略・50音順)

可児克之、越野和宏、(有)サトー印刷、

西中間貢、丸田幸一、森永陽子、吉田優子



◆この機関紙の発行に共同募金の配分を受けています

## 「更生保護70年史」



更生保護制度施行70周年記念事業の一環として「更生保護70年史」が発刊され、法務省保護局から地方更生保護委員会、保護観察所及び関係機関・団体等に配布されました。BBSに関しては、地方連盟及び県連盟に1部ずつ送付されていますが、ご希望の方がおられましたら、2000円(送料別)で頒布しておりますので、(更)日本更生保護協会(FAX 03-3356-7610)までお申し込みください。



### 英語版BBSリーフレット 「BBS Movement」

英語版リーフレットを作りました。今後、海外に広く日本のBBS活動を紹介したり、海外からの留学生の会員募集をしたりするときなどにご利用ください。

日本BBS連盟HP  
Access HERE !!!  
<http://bbs->



## 「BBS運動発足70周年記念誌」



BBS運動発足70周年記念誌は引き続き1500円(送料込)で頒布中です。ご希望の方は、日本BBS連盟事務局までお申し込みください。



ともだち220号をお届けします。コロナ禍に加え記録的豪雨などで被災等された方々やその地域の皆様には心よりお見舞い申し上げます。毎年7月と言えば、社会を明るくする運動で活発な広報活動が展開されているところですが、今年はBBS活動や新会員募集も困難な状況にあります。それでも、各地区で様々な工夫を凝らし、「未来の輪」へつなげていただいていること心強く思います。そのような中、過日、会員の皆様のご協力のもと、今年度の通常総会が開催されました。本号はこの総会報告のほか、学域BBS会を巡る特別寄稿、新会発足報告などの玉稿を頂きました。また、活動資金獲得や活動への理解、支援を求めるための有効な方法であるクラウドファンディングについての特集を組み、法務省保護局岡本補佐官、昨年度挑戦したBBSの4団体、そしてそれに並走してくださった独立行政法人福祉医療機構三好氏から今後の取組に向けてエールをいただきましたので、参考にしていただければ幸いです。新型コロナウィルスの一日も早い収束と皆様のご健康を切にお祈りしております。(N)